

工学部・工学研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準4 学生の受入 4 - 1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4 - 2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	入学者選抜の改善に繋がった取組 ○推薦入試 について， 出願者が年々減少， DNC 試験結果による欠格者が1/3 に達する， 入学者のイメージがよくない等の問題があり，出願時期を DNC 試験後に変更，出願資格を既卒1年目までに拡大することとした。結果，志願者は，前年比55%まで減少したが，出願者の DNC 試験の成績から，学力的には例年と変化がないと判断した。特に下位層の消滅は，欠格者の減少（1/10 以下）につながったと判断している。また，前年度9名の欠席者があったが，0名になった。既卒1年の出願は1名であった。なお，平成31年度入試の入学者数は528人であり，定員超過率は1.04倍であり適正な数である。 ○博士課程（平成31年度入試）からテレビ会議システムによる入試を導入し，受験者の負担を軽減することができた。 平成31年4月入学者数は27名でこの時点では，入学定員の1.00倍であり適正な数である。	推薦入試 の検討と変更について【資料1】	工学部・工学研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）
基準5 教育内容及び方法 5 - 2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5 - 5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	単位の実質化を図るための取組 ○グローバル化に向けた短期海外留学制度を継続（平成30年度，短期留学26名）し，体制整備・経済的支援（JASSO，工学部後援会，工業倶楽部）等の留学サポートを行うことで推進した。また帰国後インターンシップ報告会で活動内容を確認・評価した。 ○「機械工学創造演習・知能機械工学演習（機械工学科3年次後期必修）」では，岐阜県産学官連携人材育成・定着プロジェクトの一環として，企業での実習を行い，受け入れ先担当者および教員により個々の学生に対して自習内容の確認及び評価を行った。（受講生約130人／年） ○「技術表現法（学部共通2年次前期必修）」ではガイダンスで目的，進め方，最終提出成果等を具体的に示した．そして毎講義で数時間程度の課題を課した．最終講義では学年発表会で学生相互及び教員による評価を行った．（受講生約518人／年）		

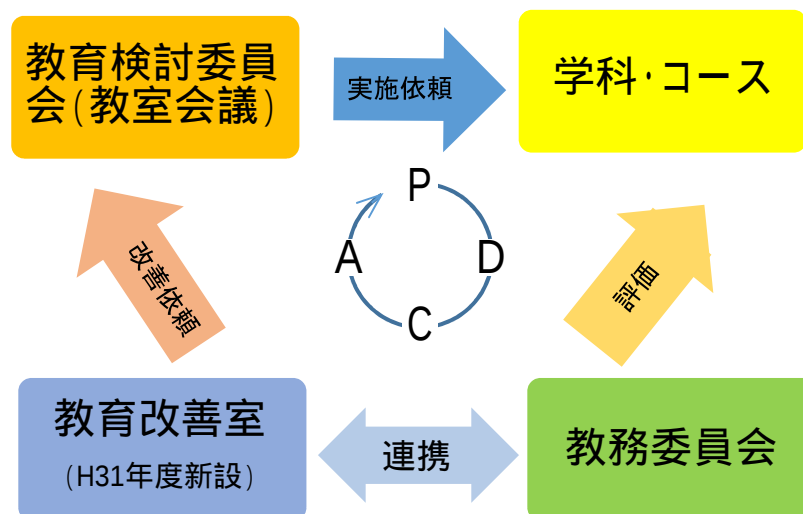
基準6 学習成果 6 - 1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6 - 2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	学習成果の向上に繋がった取組 ○授業評価アンケートを実施し、学生の学習時間、学習態度を把握し、その集計結果をGグループで開示した。また、一部の授業において授業の方法等についてアンケートで寄せられたコメントを検討し、教員に改善を促すこととした。 ○卒業・修了者のアンケート（置き手紙）から、在学時に感じた学生の意見・提案を把握し、質の改善・向上を図っている。 ○グローバル化を促進するために、海外での国際会議発表者に経済的補助を行った。昨年度より14名の増加となり、グローバル化促進に繋がった（H30年度、36名）。	授業評価アンケート結果【資料4】 置き手紙【資料5】	
基準8 教育の内部質保証システム 8 - 1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8 - 2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組 - リフレクションペーパーを教務委員会で開示し、全教員が授業改善の工夫を共有できるようにした。 - 博士人材データベース（JGRAD）についてのFDを開催し、概要について理解を深めた。 - アクティブ・ラーニングについてのFDを開催し、学習の質を高める工夫として効果のある技法・学習課題・設計・評価等について知見を広めた。 - 共通テストに関するFDを開催し、センター試験からの変更点、必要となる対応等についての理解を深めた。	リフレクションペーパー結果【資料6】 FD資料【資料7】	

平成30年度・工学部・工学研究科における教育改革(基準4, 5, 6, 8関係)

実施体制

学部: 教育改善室, 教務委員会

学科・コース: 教育検討委員会(教室会議)



基準5 教育内容及び方法

単位の実質化

- ・グローバル化のための短期海外留学(26名)
報告会で活動内容を確認・評価.
- ・【事例1】「機械工学創造演習」企業での実習.
受入企業担当者・教員で個別に評価.(必修科目, 約130名受講)
- ・【事例2】「技術表現法」
毎講義で数時間程度の課題.最後に学年発表
会で学生相互および教員で評価.(学部共通必修
科目, 518名受講)

基準4 学生受入

- 入試実施方法の改善
- ・推薦 の出願時期・資格を変更
→ 欠格者, 欠席者が減少.
 - 入学者数(平成30年度):
 - ・学部 528人(定員510人).充足率1.04倍
 - ・博士課程
 - テレビ会議システムによる入試を導入
→ 受験者の負担軽減.
 - 4月入学27人(充足率1.00倍).

基準6 学習成果

学習成果向上の取り組み

- ・授業評価アンケート, 卒業・修了者アンケート(置き
手紙)の実施と公開, 対応.
- グローバル化推進のための国際会議発表者への経
済援助(36名)

基準8 教育の質保証

リフレクションペーパーを開示・情報共有
教育に関するFD実施(H30年度3回)